

2024年1月号

故郷の人物を知ろう

たかおか 温故知新

女性教育者／神子高たか・武田貞子

江戸時代の中ごろ、町民や農民の間で教育が盛んになり寺子屋が増えました。今回は寺子屋を中心に女子教育に尽くした2人を紹介します。

○神子高たか(1817～86)

たかは修験道当山派・大福院(片原町。のち木津に移転)2世金寿院大智の子です。幼少期に金沢の人に文字を習ったといわれています。1833年、弱冠16歳の時に大福院において女子専門の寺子屋を開きました。習字をはじめ裁縫や茶道・華道・和歌などを教えました。また『女大学』の素読や『商売往来』の講義もしました。1日に200人以上も通っており生涯で8,000人もの女子を教えたといわれています。1874～75年頃、高岡育英小



学校の教員にも就任しましたが、寺子屋は継続しました。

○武田貞子(1814～74頃)

貞子は富山藩布瀬村の十村役、高安定義の子です。9代富山藩主前田利幹側室の菊園に習字・読書・裁縫・茶道などを学び、技芸に熟達していました。戸出の富豪で山廻役の竹村屋(武田氏)長兵衛に嫁ぎます。1864年、家の経営は傾き、夫が亡くなります。3男1女を抱えた貞子は一念発起し、女子専門の寺子屋を開きます。その教育は評判をよび、当時資産家の子女のほとんどは貞子の教えを受けたといわれます。



当時女性に学問は不要とされ、越中では寺子屋に通った女兒も多くなく、女性の先生は稀でした。2人は女子教育の功労者と言えるでしょう。(仁ヶ竹主幹)

問合先 博物館 TEL 20-1572